

Copilot（無償版）が生成した＊「子どもの権利とビジネス原則」実践のヒント

＊生成日：2026 年10月15日。フォントサイズ等の体裁は一部読みやすい形に整えていますが、文言は生成された原文のままです。

【使用したプロンプト（指示文・質問文）】

人口１万人ほどの町でクリーニング店を個人で経営していますが※、ユニセフ等が提唱する「子どもの権利とビジネス原則」に基づいた形で本業を進めるにあたり、どのような取り組みができるでしょうか？ ユニセフ等が以下の URL 先のページで紹介する以下の諸ツールも参考に、できるだけ具体的な形で提案・例示してみてください。
https://www.unicef.or.jp/crb/tools/ https://www.unicef.or.jp/crb/tools/tools05.html

※ホームページをお持ちであれば、下線部を「次の URL の企業（事業所・店舗）に」に置き換え URL を記入いただくだけでも回答が得られるようです。

人口１万人規模の町の個人経営クリーニング店であっても、「子どもの権利とビジネス原則（CRBP）」を実践する余地は意外にたくさんあります。むしろ、地域密着型の小規模事業者だからこそ、地域の子どもや子育て世帯との距離が近く、取り組みの効果が見えやすい面があります。

ユニセフのツール群は、大企業向けに見えますが、その本質は

- 子どもを重要なステークホルダーとして考える
- 子どもへのマイナス影響を減らす
- 子どもや子育て家庭にプラスの価値を生む

という考え方です。 クリーニング店向けに落とし込むと、以下のような実践が考えられます。

① 経営理念・店の方針に「子ども」を入れる

ユニセフは、子どもの権利を企業方針や行動規範に組み込むことを推奨しています。 たとえば店内やホームページに、

当店は、地域の子どもたちの健やかな成長と安全を支える事業活動を行います。

という一文を掲げるだけでも第一歩です。 さらに、

- 子どものいる家庭を応援する
- 子どもの安全を見守る
- 子どもの健康に配慮したサービスを提供する

を明文化します。

② 子育て家庭向けサービスを設計する

クリーニング店の顧客には保護者が多く含まれます。 例えば、

【免責事項】 本文は、参照元 URL 等の情報をもとに人工知能（AI）が自動生成したものです。記載されている内容は AI による要約・解説であり、必ずしも国連児童基金（ユニセフ）や日本ユニセフ協会の公式な見解や方針を示すものではありません。

子ども服割引

- 制服
- 通園服
- 部活ユニフォーム
- 発表会衣装　　の割引日を設ける。　　例　毎週木曜日は学生服 10%OFF

新生児応援パック

- ベビー布団
- おくるみ
- ベビーカーシート　などを低価格で洗う。

子育て応援会員

子どもが 18 歳未満の家庭に

- ポイント増加
- 集配優先
- 雨天無料配達　　などを提供する。

これらは「市場において子どもの権利を支える」という考え方に合致します。

③ 子どもの健康を守るクリーニング

クリーニングは衛生と深く関係します。例えば

アレルギー配慮

- 香料の少ない仕上げ
- 柔軟剤オプションの説明

学校・保育施設向け

- カーテン
- お昼寝布団
- 発表会衣装　　の衛生管理サービス

感染症流行時

地域へ **家庭での寝具衛生管理のポイント** を無料配布する。
利益だけでなく地域の子どもの健康にも貢献できます。

【免責事項】　本文は、参照元 URL 等の情報をもとに人工知能（AI）が自動生成したものです。記載されている内容は AI による要約・解説であり、必ずしも国連児童基金（ユニセフ）や日本ユニセフ協会の公式な見解や方針を示すものではありません。

④「子ども 110 番」的な機能を持つ

ユニセフのステークホルダーエンゲージメントの考え方では、地域社会との関わりが重要です。

店舗を
- こども避難所
- 駆け込みスポット

として登録することも考えられます。 例えば
- 不審者に追われた
- 道に迷った
- 体調不良

そんな子どもが立ち寄れる場所にする。地方では非常に価値があります。

⑤ スタッフの子育て支援

ユニセフの「家族に優しい職場」ツールキットは、子育てしながら働きやすい職場づくりを推奨しています。小規模事業者でも、

柔軟な勤務時間

例
- 9:00〜15:00 勤務
- 学校行事で休みやすい

子の看護休暇

法定以上でなくても
- インフルエンザ
- 発熱

の際に休みやすくする。

夏休み配慮

スタッフの子どもが長期休暇中は
- シフト調整
- 短時間勤務

を認める。

人口 1 万人の町では、こうした評判が採用力向上にもつながります。

【免責事項】 本文は、参照元 URL 等の情報をもとに人工知能(AI)が自動生成したものです。記載されている内容は AI による要約・解説であり、必ずしも国連児童基金(ユニセフ)や日本ユニセフ協会の公式な見解や方針を示すものではありません。

⑥ 子どもが関わる仕事での安全ルール

ユニセフのチャイルドセーフガーディング・ツールキットは、企業活動の中で子どもの安全を守ることを求めています。たとえば、

職場見学

小学生が来るときは
- 熱機器に近づけない
- アイロン区域立入禁止
- 機械操作禁止

を徹底する。

インターン・職業体験

中学生が来た場合には
- 危険薬品を扱わせない
- 保護具を着用
- 常時見守る

などをルール化する。

⑦ 地域の若者育成

ユニセフは次世代の人材育成を企業の役割の一つとして挙げています。 例えば

中学生職業体験

1 日だけでも
- シミ抜き体験
- 接客体験
- レジ業務見学

を実施する。

高校生アルバイト

- 最低賃金厳守
- 安全教育
- ハラスメント防止

を明確化する。

キャリア教育協力

学校からの依頼で **なぜ町にクリーニング店が必要なのか** を話す。

【免責事項】 本文は、参照元 URL 等の情報をもとに人工知能（AI）が自動生成したものです。記載されている内容は AI による要約・解説であり、必ずしも国連児童基金（ユニセフ）や日本ユニセフ協会の公式な見解や方針を示すものではありません。

⑧ サプライチェーンにも目を向ける

ユニセフは児童労働を含むサプライチェーンの課題にも注意を促しています。 小規模店でも、

仕入先確認

- 制服メーカー
- 資材業者
- 洗剤メーカー

について 人権方針を公開している企業を 優先する。

リネンサプライ会社選定

価格だけでなく

- 人権対応
- 労働安全

も確認する。

⑨ 店舗を「地域の学びの場」にする

例えば店内掲示で

- 水の大切さ
- 衣類を長く使う意義
- リユースや修繕

を紹介する。子どもにとっては 服を大切に使う環境教育になります。

⑩ 年１回の「子どもの権利」セルフチェック

ユニセフのインパクトアセスメント（影響評価）の考え方を簡易版で実施します。

チェック例

職場 ・ 子育て中の従業員が働きやすいか
顧客 ・ 子どもの健康を損ねるサービスはないか
地域 ・ 子どもの安全に貢献できているか
情報発信 ・ 子どもを不適切に広告利用していないか

毎年〇△×で自己評価するだけでも十分です。

【免責事項】 本文は、参照元 URL 等の情報をもとに人工知能（AI）が自動生成したものです。記載されている内容は AI による要約・解説であり、必ずしも国連児童基金（ユニセフ）や日本ユニセフ協会の公式な見解や方針を示すものではありません。

特におすすめの
「町のクリーニング店版・子どもの権利アクション 5」

費用対効果を考えると、まずは次の 5 つが現実的です。

1. 学生服・通園服クリーニング応援制度
2. 子ども 110 番の店への登録
3. 子育て中従業員向け柔軟シフト
4. 中学校の職場体験受け入れ
5. 年 1 回の子どもの権利セルフチェック

これらは大きな投資を必要とせず、人口 1 万人規模の町でも実行しやすく、「子どもを大切にする地域インフラとしてのクリーニング店」という独自の価値づくりにつながると思います。

【免責事項】 本文は、参照元 URL 等の情報をもとに人工知能（AI）が自動生成したものです。記載されている内容は AI による要約・解説であり、必ずしも国連児童基金（ユニセフ）や日本ユニセフ協会の公式な見解や方針を示すものではありません。